

「いじめ」について考え、議論する教材シリーズ

私たちが 選んだ いじめ

利用の手引き



はじめに 2

エピソード1

変えられる!? クラスの空気 ～ 脱いじめ傍観者教育

ドラマストーリー 4

モデル指導案 6

授業プログラムの研究 8

授業効果の検証 10

エピソード2

どうする!? SOS ～ ホウレンソウ（報告・連絡・相談）教育

ドラマストーリー 12

モデル指導案 14

授業アンケート結果にみる指導上の留意点 16

Point Of View① 現代の10代が抱える悩みに寄り添う 18

はじめに

「私たちの選択肢」は、いじめ等の防止に寄与することを目指して、千葉大学、敬愛大学、柏市教育委員会、ストップイットジャパン等が連携して開発している教材シリーズです。

「私たちの選択肢」の「私たち」とは、映像に出てくる登場人物のことでなく、教室で映像を見ている子どもたちを指しています。子どもたちには、「私たちのクラスで誰かが困っているとき、その人は誰かに相談できるだろうか」と問ってもらい、もし心配があるのであればあらためて自分たちのクラスの雰囲気を変えるよう、一人一人が動いてほしいと願っています。こうした願いをもって、多くの方々のご協力をいただき、「私たちの選択肢」という教材シリーズを作りました。

多くの学校、多くの教室でこの教材シリーズを活用していただき、子どもたちが互いの違いを尊重し、支え合えるようになってもらえることを願っています。



シリーズ監修
藤川大祐
千葉大学教育学部教授

私たちの
選択肢

教材紹介

「私たちの選択肢」の教材シリーズには、「脱いじめ傍観者教育」、「ホウレンソウ（報告・連絡・相談）教育」の2つがあり、それぞれ映像教材とモデル指導案を用意しています。また、これらのテーマについて、より理解を深めていただくため、各分野の専門家による解説、分析結果、コラムも収録しました。

変えられる!?
クラスの空気

脱いじめ傍観者教育

ドラマストーリー

岡本光は内気な性格で、積極的に話しかけたり、SNSのグループトークに書き込んだりするのには苦手です。いつもクラスのグループトークを盛り上げているのは、教室でもムードメーカーの松尾。しかしある日、彼の行動をきっかけに、クラスの雰囲気が変わり始めます。



「今回のテストは自信がある」と豪語していた松尾。テストが返却されると、周囲の人の点数を勝手に見て、自分のほうが高かったと自慢し、反感を買ってしまいます。



以来、SNSに松尾の悪口を投稿したり、グループトークで彼を笑ったりするクラスメートが現れるように。悪口の書き込みはどんどん増え、内容もエスカレートしていきます。

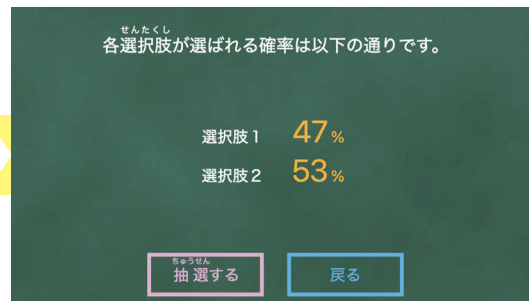


友人と一緒にグループトークを見ていた光は、「誰かが止めないと」と考えます。しかし、「無視されるのが怖くてみんな止められない」と友人に言われ、どうすべきか悩んでいます。



選択肢提示

児童生徒は、自分が光だったら、アルファトークに書き込むか書き込まないかを考えます。展開1に進んだ場合と、展開2に進んだ場合、それぞれ異なるエンディングが用意されています。



選択肢決定

どちらのストーリーに進むかは、児童生徒一人一人の選択を反映した確率に基づく抽選で決まります。



結果

展開1は、光の書き込みに同調するメンバーが続き、クラスの雰囲気が好転。光にも友達が増えました。展開2は、悪口がさらに広まり松尾は孤立。光の気持ちも沈んでいきます。



解説

選択肢1・2を選んだ割合に、その学級の雰囲気が表れていることを説明。いじめを傍観するのではなく、一人一人が何かしようと考えすることで、いじめを止めやすい学級の雰囲気になることを伝えます。

モデル指導案

対 象 ▶ 小学校高学年～中学校3年生
時 間 ▶ 45分～50分、1コマ
活用場面 ▶ 道徳、特別活動、総合的な学習の時間

ねらい

- 1 ▶ いじめの問題を早期に解決するためには、被害者・加害者以外の児童生徒が観衆・傍観者の立場にとどまらず、被害者や加害者に声をかけたり、いじめが行われている雰囲気を変えたり、誰かに相談したりといった、なんらかの行動をとることが重要だということを理解する。
- 2 ▶ 一人一人がいじめを止める行動をとれるかどうかにはクラスの雰囲気関わっていることを理解し、一人一人の日常の態度がいじめの予防や解決に関係していることを理解する。
- 3 ▶ 特にネットいじめにおいては、教師や保護者が直接いじめの状況に気づくことが難しいこと、文字だけのコミュニケーションにおいて雰囲気を変えることが難しいことを踏まえ、工夫していじめを止める行動がとれるようになる。

時配	学習活動	発問	指導上の留意点、★使用教材
15分	1. いじめへの対応について考える		
10分	● 動画1（約11分、「悪口をやめるよう書き込みをする」か「何も書き込まない」かの選択まで）を視聴する。		○ 導入に時間をかけず、すぐに動画を流す。 ★ 映像教材と映像再生機器（PC、DVDプレーヤー、大型テレビ、プロジェクター、スピーカー等） ○ 個人の考えをワークシートに記入する。 ★ ワークシート
5分	● 動画2（約1分）を視聴する。 ● 抽選方法について確認し、抽選アプリで抽選を行う。		○ どちらの選択肢をとるか挙手させ、人数を板書する。 ○ 近くの席の者どうし、意見交換をする。 ○ 時間に余裕があれば数名に意見を口頭で発表させ（ランダム指名を推奨）、選んだ選択肢ごとに要点を板書する。 ★ 抽選アプリ（ランダム指名） ○ それぞれの選択肢を選んだ人数の割合がクラスの雰囲気を表していること、確率によって次の展開が決まることを理解させる。 ★ 抽選アプリ（選択肢抽選） ○ 児童生徒のつぶやきを適宜拾いつつ、対話的に進行する。

時配	学習活動	発問	指導上の留意点、★使用教材
10分	2. 選択の結果を振り返り、考える		
5分	3. 解説を聞く		
5分	4. 報告や相談の方法を知る		

ワークシート、抽選アプリ、STOPit説明書、STOPit利用方法動画のダウンロードは、P38を参照
★ 抽選アプリ(選択肢抽選／ランダム指名) の使用法はP37を参照

授業プログラムの研究

いじめの傍観者にアプローチする 新たな授業を開発

藤川大祐 千葉大学教育学部教授

いじめの傍観者に着目

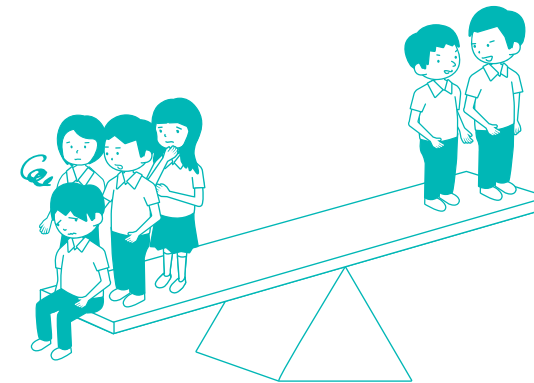
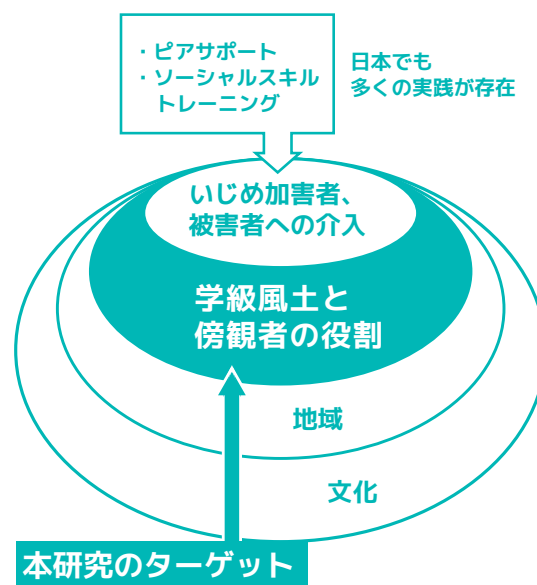
いじめは、加害者と被害者だけが関わって発生するものではなく、まわりで見ている観衆や傍観者といわれる者たちも関わっています。いじめをしない（加害者にならない）教育や、いじめの被害を受けたときに助けを求める教育は、これまでもある程度なされてきましたが、観衆や傍観者の立場だった者がいじめを止める行動を起こすようにする教育は、これまであまりなされていませんでした。特にネットいじめに関しては外から見えにくいため、観衆や傍観者だった者がいじめを止める行動をとることは、ますます重要といえます。

私たちの研究は、観衆や傍観者だった者がいじめを止める行動をとれるようにする「脱いじめ傍観者教育」のプログラムを作る研究です。



研究目的と方法

私たちは、小学生、中学生、高校生計919名を対象に、いじめが疑われる2種類の場面（いじめを止める雰囲気がある場面と、ない場面）で、自分だったらどのような行動をとるのか、質問紙調査を行いました。そしてこの結果に基づいて、観衆や傍観者の立場の者が、いじめを止める行動をとれるようになることを目的とした授業プログラムを開発することとしました。



クラスの中でいじめを止める雰囲気がある場合、いじめを止める行動をとる人が多くなる

研究の成果

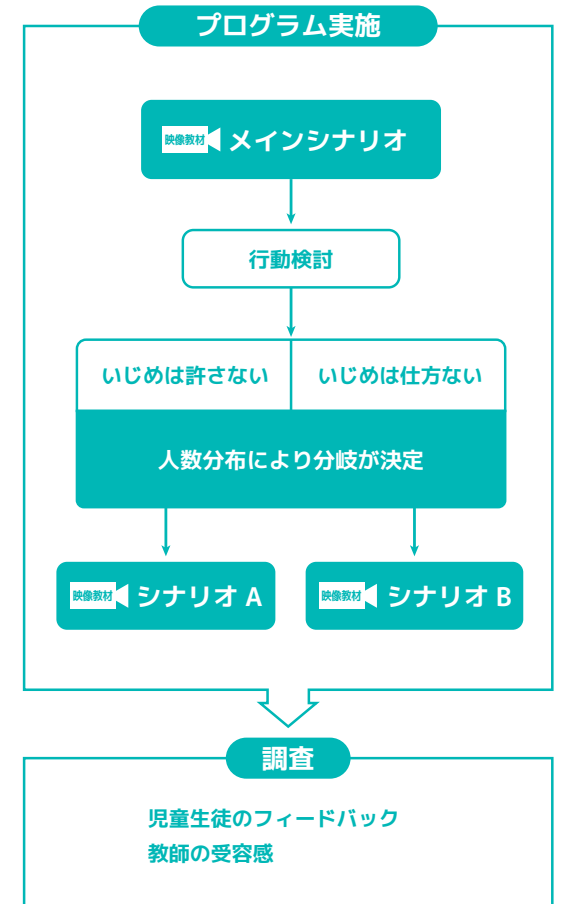
質問紙調査の結果、クラスにいじめを止める雰囲気がある場合にはいじめを止める行動をとるとする人が多く、クラスにいじめを止める雰囲気がない場合にはいじめを止める行動をとらないとする人が多いことがわかりました。

この結果を基に、教材「私たちの選択肢」を制作し、この教材を使った授業プログラムを開発しました。教材は、いじめを傍観していた立場の者を主人公とする動画教材とし、主人公の判断は実際の教室の雰囲気によって決まるようにしました。

2017年3月、千葉県柏市の中学校1年生3クラスでそれぞれ1時間の授業を実施し、この「私たちの選択肢」が私たちが想定した通りの授業プログラムとなっていることを確認しました。

藤川大祐（ふじかわ だいすけ）

メディアリテラシー、ディベート、環境、数学、アーティストとの連携授業、企業との連携授業等、さまざまな分野の新しい授業づくりに取り組む。学級経営やいじめに関しても研究。千葉大学教育学部附属中学校長及び教育学部副学部長を兼務（2018年11月現在）。



研究体制

代表者：藤川大祐（千葉大学）

質問紙調査等：青山郁子（静岡大学）、五十嵐哲也（兵庫教育大学）

教材作成・授業分析等：阿部学（敬愛大学）、三戸雅弘（東金市立東金中学校）、柏市教育委員会、古林智美（NPO法人企業教育研究会）、山本恭輔（NPO法人企業教育研究会）他

授業効果の検証

授業実施の前後で見られた生徒たちの変化（中間レポート）

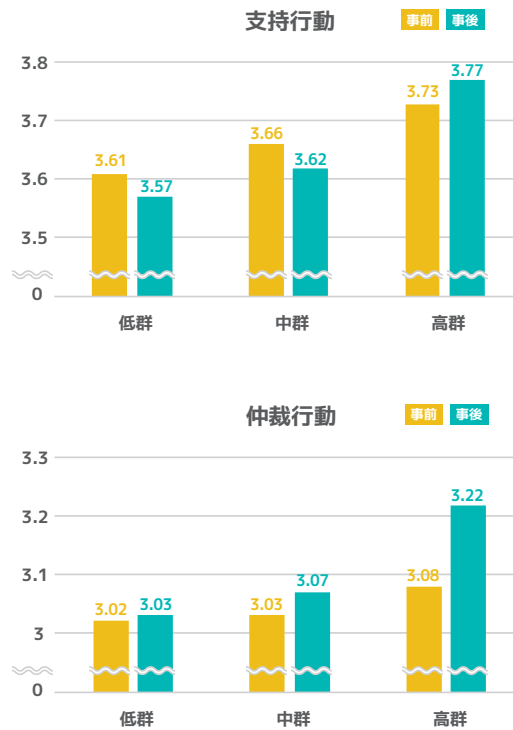
青山郁子 静岡大学国際連携推進機構特任准教授

いじめ防止対策推進法の施行以来、予防的取り組みの重要性が指摘されています。そこで、いじめ場面での傍観者を対象にした予防的教育プログラム「私たちの選択肢」を、千葉県柏市（21校）、千葉県野田市（11校）、埼玉県草加市（11校）の中学校43校の中学1年生、6,462名を対象に実施しました。そしてプログラム実施の事前と事後で、生徒たちの傍観者としての行動選択^{*1}、学級のいじめ否定の規範意識^{*2}がどのように変化するかを検討するため、質問紙調査を実施しました。また行動の変化が、もともとの学級風土（低群、中群、高群）^{*3}とどのように関係しているかについても調査しました。

結果

傍観者の行動の変化において、被害者への支持行動（「いじめられている人をなぐさめる」など）に関し

ては、学級風土の値が高いクラス＝高群でのみ増加しました。また、仲裁行動（「いじめをやめるように皆に言う」など）に関しては、学級風土の値が低いクラス＝低群ではほとんど変化がなく、高群でのみ増加幅が大きくなっています。



一方、同調行動（「周りに同調する・調子を合わせる」など）に関しては、高群ではほとんど変化がありませんが、低群では増加が見られました。さらに報告行動では、中群ではほとんど変化は見られず、高群でもわずかに上昇している程度でした。しかし、低群では減少が見られました。

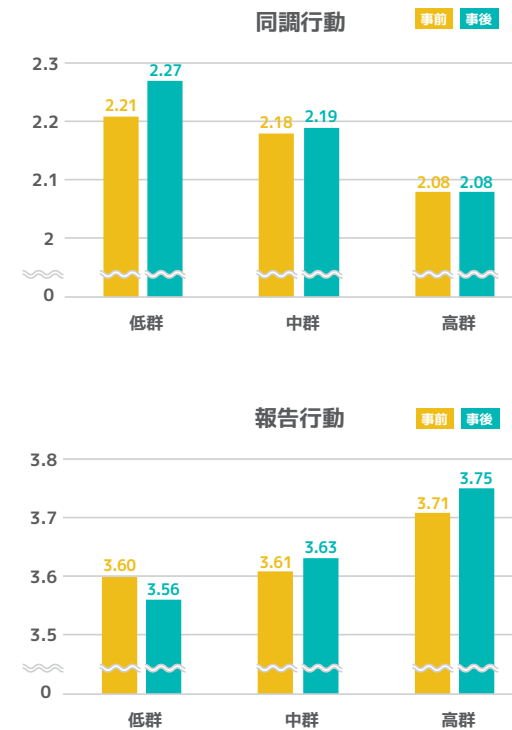
段階評定で尋ねたものであり（例：気に入らない人の悪口をわざと本人に聞こえるように言うこと）、点数が高いほど、いじめ否定の学級規範意識が高いことを示す。

***3 学級風土**
新版学級風土尺度(伊藤・宇佐美, 2017)を使用した。質問項目は全51問で、下記の8つの下位尺度からなる：学級活動への関与、生徒間の親しさ、学級内の不和、学級の満足度、自然な自己開示、学習への志向性、規律正しさ、リーダー。学級風土の平均値から±1標準偏差の値で区切り、3群（学級風土低群、中群、高群）に分類し記述統計での分析を行った。

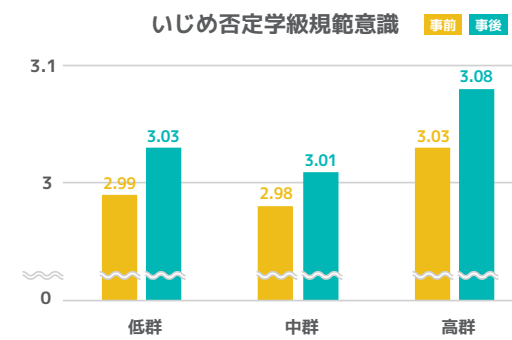
効果測定に使用した尺度

***1 傍観者の行動**
中村・越川(2014)の「いじめの停止行動に対する自己効力感」尺度(全14項目)を使用した。質問項目は、いじめを目撃した際の傍観者としての行動選択として、支持行動、仲裁行動、同調行動で構成。

***2 いじめに対する学級の規範意識**
7項目からなるいじめ否定学級規範意識尺度(大西・黒川・吉田2009)を使用した。具体的ないじめ行動等についての評価（とてもいい～とてもまずい）を7



いじめ否定規範意識においては、全ての学級風土群において増加が見られましたが、高群において、増加幅が大きくなりました。



考察

RIVERSらの論文^{*4}に、「集団内で起きるいじめの問題の理解において、近年傍観者の役割が重視されている。なぜなら、自分が直接いじめに関わらなくても、他人がいじめられているのを目撃する、悪い雰囲気のある教室にいること自体がストレスとなり、適応問題に発展するリスクがあるからだ。」とあるように、いじめ予防には被害者・加害者だけでなく、学校全体・クラス全体での取り組みが重要です。フィンランド全土で行われている、いじめ予防プログラム「KivaProgram」をはじめ、実際に欧米で科学的エビデンスが証明されているプログラムは、どれも学校単位での取り組みを前提としています。

しかし日本国内では、クラスワイドでの実践は少ないのが現状です。本プログラムは、「クラスの雰囲気がいじめ発生に関係する」という調査結果に基づいて開発されており、今回の調査でも、学級風土と傍観者の行動選択との関連が明らかになりました。しかし授業の前後で良好な結果が得られたのは、もともとの学級風土がよいクラスのみであり、学級風土がよくないクラスでは先生への報告行動の減少や、同調行動の増加など逆の効果が見られたため課題が残っています。

1回50分のプログラム実施だけで全ての生徒の行動や規範意識の変化をもたらすことは実質的に困難であるため、今後も継続的ないじめ予防教育の機会提供は必須です。さらに、ポジティブな行動介入と支援（Positive Behavioral Intervention and Support: PBIS）などの取り組みを通じ、よりよい学級風土形成への努力が必要だと考えます。

^{*4} RIVERS, I., POTEAT, V. P., NORET, N., and ASHURST, N. (2009) Observing bullying at school: The mental health implications of witness status.

青山郁子（あおやま いくこ）

いじめ・ネットいじめに関する心理的背景やリスク要因・防御要因を研究している。また予防教育と社会情動的スキルの育成を目的としたSocial Emotional Learning (SEL) プログラムの普及に取り組んでいる。

どうする!?
SOS

報告 連絡 相談 ハウレンソウ 教育

ドラマストーリー

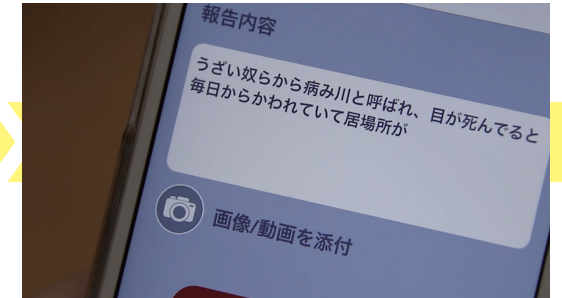
「コイツ、いつも病んでるから“病み川”だ」と、クラスメートにからかわれた網川正樹。何と言われようと相手にせず、SNSにハンドルネームで愚痴を投稿することで、気を紛らわせていました。しかし相談相手のいない網川は、だんだん無気力になっていきます。



職場体験の事前学習中、仕事をするときは、ハウ（報告）レン（連絡）ソウ（相談）が大切だと教わります。悩みも「ハウレンソウ」しましょうと話す先生に対し、網川は「アホらしい」とつぶやきます。



今日は学校に行きたくない、と思いながらも登校した網川。美術の時間、クラスメートに「魚のように目が死んだ病み川」という似顔絵を描かれ、耐えきれなくなり教室を出て行ってしまいます。

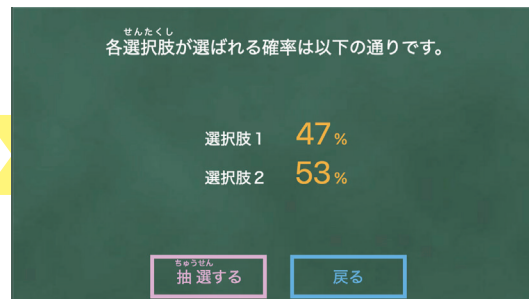


帰宅し、ムシャクシャして鞆を蹴ると、学校で配布された「ハウレンソウカード」が飛び出します。網川はスマートフォンを手に取り、カードに書かれたアプリの相談フォームに悩みを打ちました。



選択肢提示

児童生徒は、自分が網川だったら、相談フォームに書いた文章を送信するかしないか考えます。展開①に進んだ場合と、展開②に進んだ場合、それぞれ異なるエンディングが用意されています。



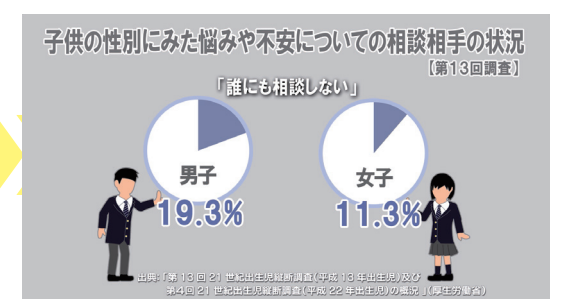
選択肢決定

どちらのストーリーに進むかは、児童生徒一人一人の選択を反映した確率に基づく抽選で決まります。



結果

展開①は、アプリの窓口の担当者や、担任の対応によって網川を取り巻く環境が改善。展開②は、網川はストレスを溜めて起きられなくなってしまい、自分の居場所を見失ってしまいます。



解説

悩みや不安を抱えているとき、家族や友人や先生に相談する以外にも、電話やメール、スマートフォンアプリの相談窓口があることを紹介。問題が小さいうち、早いうちに報告、連絡、相談する大切さを解説します。

モデル指導案

対 象 〉 小学校高学年～中学校3年生
 時 間 〉 45分～50分、1コマ
 活用場面 〉 道徳、特別活動、総合的な学習の時間

〈ねらい〉

- 1 自分が悩みを抱えているときには、一人で抱え込まず早めに報告・連絡・相談をすることで現状を改善できることを理解し、報告・連絡・相談をする行動がとれるようになる。
- 2 自分の周りの人が悩んでいるのを見つけたときに、必要に応じて適切な相談先に報告・連絡・相談をする行動がとれるようになる。

時配	●学習活動 発問	○指導上の留意点、★使用教材
13分	1. 悩みを相談するか否かについて考える ●動画1（約7分、「相談を送信する」か「相談を送信しない」かの選択まで）を視聴する。 ●動画の内容を振り返り、発問をする。 ・主人公の名前 ・網川君は何に悩んでいたのか ・学校で配られていたカードは何か、等	○導入に時間をかけず、すぐに動画を流す。 ★映像教材と映像再生機器（PC、DVDプレーヤー、大型テレビ、プロジェクター、スピーカー等） ○網川君の気持ちは中学生として何となくわかるのか、わからなくてもどのような心情なのか生徒が寄り添って考えられるようにドラマの内容を振り返る。 ○発問後、個人の考えをワークシートに記入させる。 ★ワークシート  ○数名に意見を口頭で発表させ（ランダム指名を推奨）、選んだ選択肢ごとに要点を板書する。 ★抽選アプリ（ランダム指名）  ○どちらの選択肢をとるか挙手させ、それぞれの選択肢の割合を把握させる。（人数は板書しておく。） ★抽選アプリ（選択肢抽選）  ○近くの席の者どうし（グループ）、意見交換をする。 ○先ほどの意見以外で出た意見を生徒に発表させる。 ○児童生徒のつぶやきを適宜拾いつつ、対話的に進行する。
15分	網川君は途中まで文章を書いて止まっていた。自分が網川君の立場だとしたらどちらを選びますか。 予想される回答 相談を送信する からかわれることにこれ以上耐えられないから、アプリなら気軽だから、誰かに相談したそうだったから、等。 相談を送信しない 誰が相談相手なのかわからないから怖い、悩みを知られるのが恥ずかしい、どうせ送っても解決しない、ホウレンソウを信じていないから送信しない、一回文章で書いたことで満足するかもしれないから、等。 *ここでは網川君に送信したい気持ちと送信したくない気持ちのどちらも存在しているのではないかと、いうことを子どもたちの意見から引き出し、網川君の矛盾する気持ちを理解させたい。	

時配	●学習活動 発問	○指導上の留意点、★使用教材
	●動画2（約1分）を視聴する。 ●抽選の方法について確認し、抽選アプリで抽選を行う。	○それぞれの選択肢を選んだ人数の割合がクラスの雰囲気を表していること、確率によって次の展開が決まることを理解させる。
8分	2. 選択の結果を振り返り、考える ●抽選の結果に従い、動画3（選択肢1）もしくは動画4（選択肢2）を視聴する（動画は各約1分）。視聴後は児童生徒の様子を見て、何か言いたそうな者がいれば発言してもらう。 ●もう一方の選択肢も見たいか確認し、意思を確認した上でもう一方の選択肢も視聴する。 ●動画5（解説）を視聴する。	○先ほどの意見を振り返り、網川君の気持ちの揺れについて確認をする。 ○自分が悩みを抱えたときや周囲がそのような状況のときには早めに報告・連絡・相談することが重要であることを理解させる。問題が小さいうちにホウレンソウをすることで解決が早く、問題が大きくなってからのホウレンソウでは解決が遅くなる。そのため早めのホウレンソウを心がけてほしいことを伝える。
9分	（少し児童生徒の様子を見てから）これまでの内容から感じたことや考えたことをワークシートに書いてください。 予想される回答 こんなにうまくいかないと思う、アプリを使うより直接相談の方が早そう、相談できるアプリを知らない、早めに誰かに相談した方がいいと思った、等。	○個人の考えをワークシートに記入する。 ★ワークシート  ○時間に余裕があれば近くの席の者どうし、書いたことを紹介させる。 ○時間に余裕があれば数名に意見を口頭で発表させる（ランダム指名を推奨）。余裕があれば、要点を板書する。
5分	3. 報告や相談の方法を知る ●自分や他人の悩みについての報告・連絡・相談先として、保護者や先生や報告窓口など、行動するための方法を伝える。 ●(STOPit導入校の場合)匿名報告・相談アプリ「STOPit」の概要と使用方法の説明を行う。	○各都道府県や市町村が設けている相談窓口を紹介する他、直接教員に伝えるなど、子どもたちが工夫していじめを止める行動がとれるための手段を伝える。 ★STOPit説明書及びSTOPit利用方法動画 

 ワークシート、抽選アプリ、STOPit説明書、STOPit利用方法動画のダウンロードは、P38を参照

★ 抽選アプリ(選択肢抽選/ランダム指名) の使用法はP37を参照

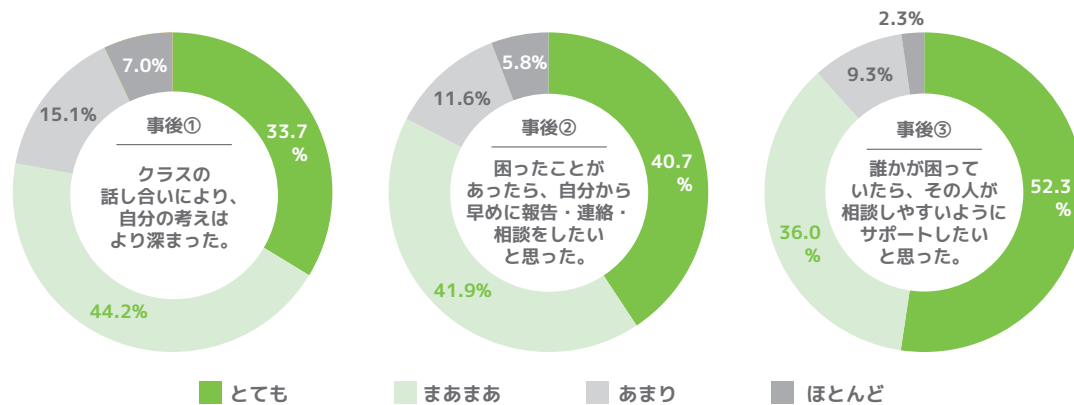
授業アンケート結果に みる指導上の留意点

阿部学 敬愛大学国際学部准教授

千葉県柏市公立中学校2年生
3クラス(30名、28名、29名：計87名)
全てクラスごとに実施
実施日：2018年7月2日

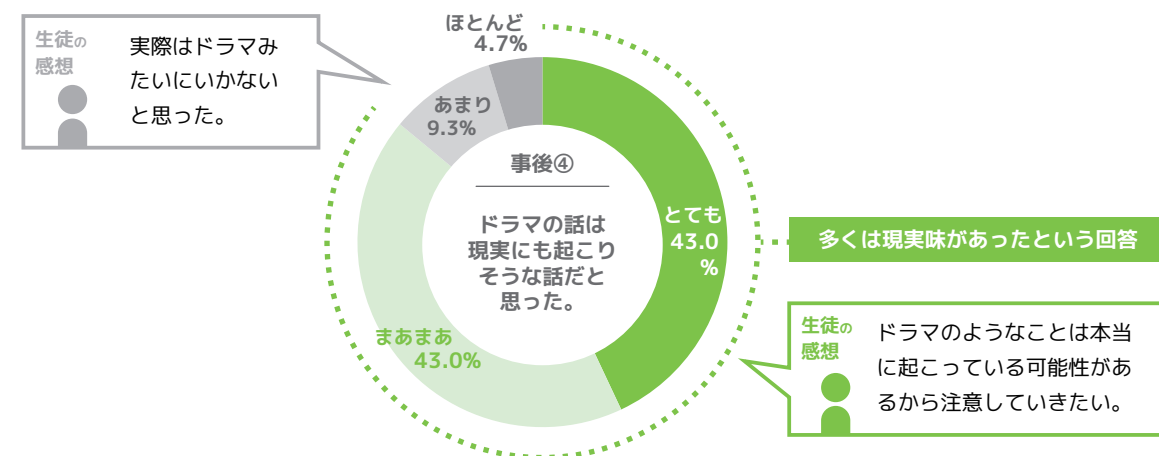
授業や教材について問うた事後アンケート、
悩みや不安を抱えたときにどうするか問うた事前・
事後アンケート
※記入ミスの回答を除いて集計している。

授業のねらいに関して



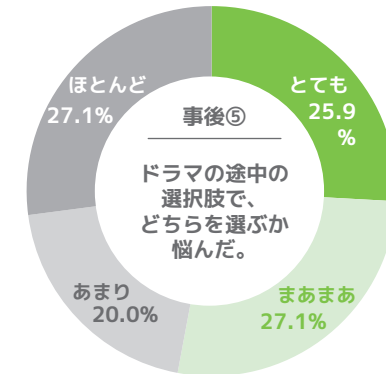
！ 肯定的な回答が多く、“ハウレンソウ”に関する授業のねらいは概ね伝わったと解せる。ただし、以下に示す点に留意する必要がある。

オリジナルのドラマ教材について



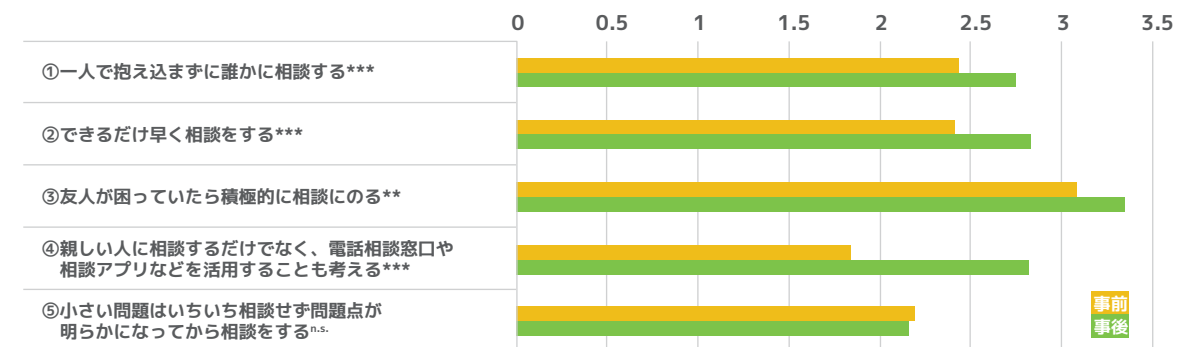
！ オリジナルのドラマ教材であるが、現実味がかったという回答が多く、内容は生徒の実態に合っているものと解せる。ドラマのハッピーエンドに対して否定的な意見もあるが、まっとうな指摘である。そうした意見を含め、多様な意見を排除するのではなく、むしろ理由や意図を丁寧に聴き確認しながら授業を進められるかが鍵となるだろう。

選択肢に関して



！ 各授業ではクラスによって選んだ選択肢の比率が異なっていた（相談する：しない ①26:4、10:18、18:11）。どちらかに偏るということが決まっている訳ではない。クラスの雰囲気や反応によって柔軟に話し合いを進めていくことが求められる。

事前・事後アンケートから



4とても 3.まあまあ 2.あまり 1.まったく の4件法で尋ねた。質問⑤は逆転項目になっている。
*p<.05, **p<.01, ***p<.001

！ 本アンケート結果から判断する限りであるが、早めのハウレンソウ、周囲へのサポート、多様な相談方法の活用について意識が高まったと思われる。
質問⑤については、ドラマの内容が「小さい問題」と認識されなかった可能性があるのではないか。クラスの生徒たちがドラマをどう受け取ったかを探りながら授業を進める必要があるだろう。

■ SOSの出し方に関する教育プログラムとして、概ね有効なものと思われる。

■ ドラマの話を現実につなげるため、クラスでの話し合いを充実させるなどの工夫が必要である。

■ ドラマを見て終わるだけでなく、クラスの雰囲気に応じて柔軟に授業を展開することが望まれる。

阿部学（あべ まなぶ）

専門は、教育方法（授業・教材づくり、幼児教育）。現代的課題に応じた様々な分野での授業・教材づくり、保育現場における継続的なエスノグラフィー研究、企業やアーティストとの連携プロジェクトなどに取り組んでいる。

Point Of View ①

現代の10代が抱える 悩みに寄り添う

認定NPO法人3keys 森山 誉恵

「ごめんなさい」と言いながら、 相談を寄せてくる子どもたち

3keysはこれまで、親をはじめ頼れる大人が周りにいないと感じる子どもたちの支援をしてきました。その中には虐待を受けてきた子どももいれば、貧困やひとり親家庭などの中で精一杯働いている親へ迷惑をかけたくないという、子どもなりのやさしさから孤立しているケースもあります。

そういった10代向けに、支援サービス検索・相談サイト「Mex（ミークス）」を運営しています。ここでは、一人で抱えているあらゆる悩みをメールや電話で相談できたり、そういった子どもたちが知りたい情報を得ることができるコラムなども配信しています。主に中高生を中心に、月に2～4万人がサイトを利用しています。

その中には、虐待や家族との不和などの家族の悩み、いじめや不登校、友達関係などの学校の悩みだけでなく、自殺願望や、精神疾患、性や妊娠の悩みなど、到底子ども一人では背負えない悩みを抱えている子どもたちの姿が見えます。

そして子どもたちの相談の文末には、ほぼ必ずと言っていいほど「ごめんなさい」が書いてあります。「こんなくだらない相談に付き合わせてしまってごめんなさい」「うまくまとまらなくてごめんなさい」「こんな私の相談に時間をとってもらってごめんなさ



支援サービス検索・相談サイト「Mex（ミークス）」

い」。その中には、自分のつらさ、苦しさを吐露することにすら罪悪感を感じるほどに追い詰められた子どもたちの姿を見つけずにはいられません。

「親や学校に私の相談は ばれますか？」

もう一つ、子どもたちの相談に共通していること。それは自分の悩みが親や学校に知られてしまわないかということです。「悩みがあっても誰にも相談できない」—この日本において、中学生の約2割、高校生の約4割がそう答えている背景には、子どもたちにとって家庭と学校が大きすぎる存在となっていることがあると感じます。部活なども含め、ほぼ家と学校の往復の中で、家と学校で嫌われたり仲間外れになることは何よりもつらいことです。

かつて多感な時期の10代は、暴走族、犯罪、非行などという形で様々な感情を吐き出していましたが、近年の未成年の犯罪・非行は減っています。一方で、10代の自傷行為や、妊娠・中絶、引きこもり・不登

校などは大きな問題となってきています。ある研究では10代の10人に1人は自傷行為をしたことがあるといえます。インターネットに投稿したり、自分を傷つけ

たりすることは、誰かに心配をかけたり、傷つけることよりも気持ちが楽なのでしょう。

家と学校は子どもを 評価する場でいいのだろうか？

私たちは家と学校を、子どもたちにとって安心・安全が担保された「居場所」に取り戻していく必要があります。子どもたちを評価する場ではなく、様々な価値観、多様性が共存しあえる空間にすることで、どんな子どももそこに居場所を感じるようにしなくてはなりません。

でもそうしたら子どもたちの成績が落ちるのではないかと心配されるかもしれませんが、社会の価値観は多様化しています。高度経済成長期のように、公式を習って決められた答えを出すことが成功につながる時代ではありません。答えは一つではない社会で、それぞれの多様性や価値観に向き合い、研ぎ澄ましていくことこそが、これからの時代に求められる最たるスキルではないでしょうか。それに、人権や命に比べたら成績なんてちっぽけな一つの評価軸でしかないのです。

Mex検索ワードランキング

- ① 死にたい
- ② いじめ
- ③ 妊娠
- ④ 勉強
- ⑤ 虐待
- ⑥ 居場所
- ⑦ 恋愛
- ⑧ 自殺
- ⑨ 親
- ⑩ 相談

- | | |
|-----------|---------|
| 11.不登校 | 16.家族 |
| 12.生理 | 17.友達 |
| 13.メール | 18.自由研究 |
| 14.DV | 19.LGBT |
| 15.メールで相談 | 20.性 |



森山 誉恵（もりやま たかえ）

慶應義塾大学法学部卒業後、認定NPO法人3keysを設立・現代代表理事兼職員。東京都共助社会づくりを進めるための検討会委員。全国子どもの貧困・教育支援団体協議会幹事。子どもの格差の現状を講演・執筆・メディアなどで発信中。

認定NPO法人3keys

子どもたちの生まれ育った環境に寄らず必要な支援が行き届くことを目的として活動。子どもを取り巻く現状を社会に伝え、親や行政以外のセーフティネットとして、子どもたちに関わる大人を増やすことを目指している。

千葉県柏市の取り組み



柏市

人口：424,705人

市立中学校数：21校

(2018年11月現在)

千葉県

柏市教育委員会の取り組みについて

いじめは、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害するとともにその後の成長に深い傷を残し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるものです。私たちは子どものわずかな変化も見逃さないようにし、いじめを早期に発見し、速やかに対応しなければなりません。

「子どもがいじめを苦に、自らその尊い命を絶つような事態は、何としても防がなければならない」これは、2017年4月に改訂した『柏市いじめ防止基本方針』の基本理念です。



脱いじめ傍観者教育について

近年、ネットいじめによる子どもの自殺が発生し続けている現状において、その防止に向けた対策は、最重要かつ喫緊の課題となっています。いじめは、深刻な事態になる前に予防・介入することが大切であるため、これまでもネットパトロールや、電話・メール相談などの取り組みを行ってきました。しかし、ネットいじめは可視性が低く、早期発見が困難な状況にあるため、現在の対応で十分であるとはいえません。そこで、ネットいじめ問題に対して早期発見と抑止力を生み出すための取り組みとして、「脱いじめ傍観者教育」をテーマとした授業を産官学連携で開発しました。授業では、傍観者の視点でいじめについて考え、自分の意見を持ち、皆で議論する活動を大切にしております。

柏市では、2017年度より本授業を市内全中学校(21校)の1年生全クラス(約100学級)で実施したうえで、ネットいじめを匿名で相談・報告できるアプリ

(STOPit)を全中学生(約10,000人)に提供することになりました。問題の解決に向けては、相談や報告を受けた後の対応が重要であることを肝に銘じ、いじめによって苦しむ子どもをなくすために、教育委員会と学校が一丸となって取り組んでいくことが重要だと考えています。本取り組みがネットいじめの抑止力となり、早期発見につながることを期待しています。



新設中学校の制服について

2018年度に開校した中学校においては、性的マイノリティの生徒たちにも配慮する観点から、市内では初となる男女共に同一デザインとしたブレザータイプの制服が導入されました。

今後の展望について

2018年7月児童生徒の自殺予防対策を更に強化することを目的として、「SOSの出し方に関する教育」を推進するための教材「どうする!?SOS~ハウレンソウ(報告・連絡・相談)教育」を開発しました。今後も産官学連携における授業開発に取り組んでいく予定です。

引き続き、いじめの未然防止、早期対応、早期解決に向けて、教育委員会や学校はもとより、家庭や地域、関係機関が一体となった取り組みを推進してまいります。

性同一性障がいや性的指向・性自認に係る児童生徒への理解と対応について

性同一性障がいや性的指向・性自認に係る児童生徒については、自殺総合対策大綱(2012年8月28日閣議決)において「自殺念慮の割合等が高いことが指摘されている性的マイノリティについて、無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つであると捉えて、教職員の理解を促進する」とされています。

そこで柏市では、2017年度から3年間で全ての教職員を対象に、性同一性障がい・性的指向・性自認に係る児童生徒の理解のための研修を実施しています。

また、児童生徒が相談しやすい環境を構築するため、図書室や保健室に関連図書を整備するとともに、児童生徒への指導及び理解のための指導教材等の研修を進め、人権教育を推進してまいります。



導入方法

学校向け無償教材

「私たちの選択肢」 教材ダウンロード

授業の指導案やワークシート、抽選アプリ、映像教材（応募が必要です）は、ストップイットジャパンの「私たちの選択肢」専用ページからダウンロードいただけます。また、実践された授業の様子や授業者の感想などもご覧いただけます。



講師派遣のご案内

「私たちの選択肢」は、学校の中で先生にご活用いただく教材ですが、条件が合えば児童生徒向けに授業を行う出張授業も受け付けます。交通費や講演料をご用意ください。

NPO法人企業教育研究会を通じて、授業を進行するファシリテーターを派遣いたします。ただし、日程や学級数などの関係でご希望に沿えない場合がございます。あらかじめご了承ください。詳しい条件等のご質問、講師派遣のお申し込みは、電話またはメールにてご連絡ください。



学校・企業・学生をつなぐNPO

企業教育研究会

NPO法人企業教育研究会

企業と連携した授業づくり、授業実践を専門としているNPO。

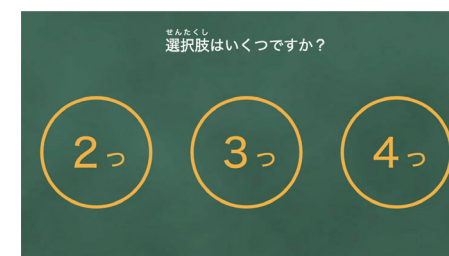
WEB : <https://ace-npo.org>

TEL : 03-5829-6108

E-mail : info@ace-npo.org

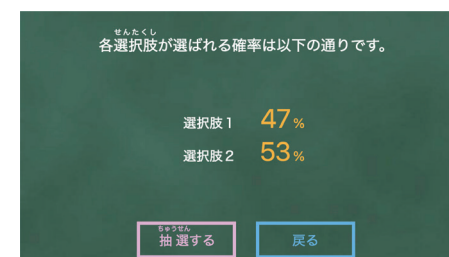
抽選アプリの使い方

選択肢抽選



①選択肢数設定

選択肢の数は2から4まで設定できます。この教材では「2つ」を使用します。

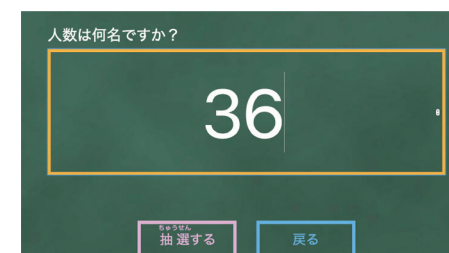


③確率確認

入力した人数をもとに、選択肢1、選択肢2に進む確率が表示されます。

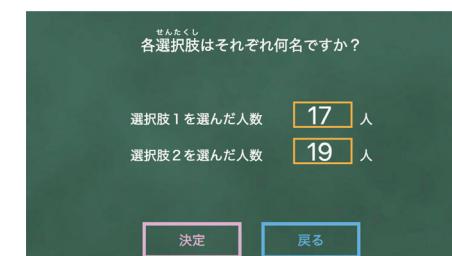
※小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とならない。

ランダム指名



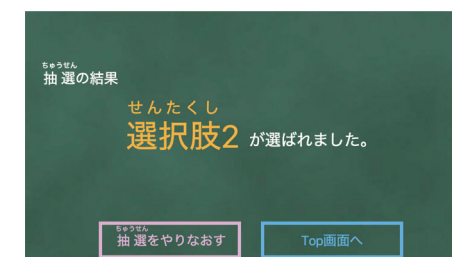
①人数入力

学級全員の人数を入力。ランダム指名では、誰が当たるかわからない緊張感があります。



②人数入力

それぞれの選択肢を選んだ人数を正確に数え、半角数字（0から99まで）を入力します。



④選択肢抽選結果

抽選が開始され、「結果を見る」をクリックすると、結果が表示されます。



②ランダム指名結果

該当する出席番号の児童生徒が発言。手を上げにくい人にも発言機会が生まれます。

📄 抽選アプリは左記の「私たちの選択肢」専用ページからダウンロードください。



STOPitの概要

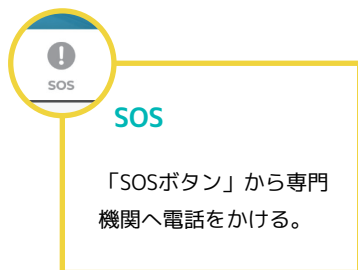
STOPitは最先端の報告・相談プラットフォームです。STOPitアプリを通して児童生徒は匿名で様々なできごとを簡単に報告・相談することができます。報告・相談内容には証拠となる画像や動画も添付可能です。またメッセージ機能を用い、児童生徒と組織担当者が匿名でチャットを行うことができます。報告・相談内容に関してさらなる聞き取りやフォローが必要な場合などに有効です。またSTOPitは強力な抑止効果も発揮します。



STOPit Admin



STOPitプラットフォーム導入組織には報告・相談管理システムのSTOPit Adminが提供されます。STOPit Adminには様々な便利なツールが備わっており、児童生徒からの報告を効率よく管理することができます。アラート機能を用い問題の深刻化を防止することや、ワンクリックで上司や関係機関への情報共有ができることなど多岐にわたります。



いじめの報告を受けたら

教育委員会

柏市では、生徒の報告先を市教委内の2部署、いじめ・非行担当部署と少年補導センターに設定しました。報告があった場合、必ずその生徒に返信します。例えば学校に連絡してよいかななどを生徒とやり取りするなど、慎重に対応をしていきます。

各種関係機関

柏市では「SOS」機能を活用し、24時間受付対応する「24時間子供SOSダイヤル」や市が運営する「やまびこ電話相談」など、問題に対応するための様々な電話相談窓口を登録しています。夜、緊急で相談が必要な生徒には、電話での相談窓口で対応します。

ストップイットジャパンの活動

私たちは「助けたい人を助けられる社会の実現」に向けて、匿名報告・相談アプリSTOPitの展開だけでなく、いじめ防止啓発をテーマとした授業づくりに取り組んでおります。本冊子にも掲載されている「脱いじめ傍観者プログラム」は、2017年度に開発し、初年度は約3,000部の無償DVD付き冊子を教育関係者の皆様に配布することができました。

私たちは、STOPitを導入する前に「脱いじめ傍観者プログラム」の授業や講演を行っております。授業や講演の中で、子どもたちは自分が悩んでいることの相談や周囲の人が困っているときに助けるためにできることを考えます。そして直接相談することや、電話・メールでの相談、そしてSTOPitを活用した方法等、多様な相談方法があることを伝えています。授業や講演の実施にこだわっている理由は二つあります。一つは、スマートフォンを持っていない子どもにとっても多様なSOSの出し方があることをしっかりと伝えること、もう一つはいじめ自体が少なくなるような学

校づくりを推進することです。

2018年11月現在、全国12自治体182校、授業や講演を含むSTOPitの活用をいただいております。今後もさらに活動を広げ、いじめ防止対策に取り組んでいきます。



ストップイットジャパン株式会社

〒103-0004
東京都中央区東日本橋2-1-15 STR東日本橋4F

WEB: <http://www.stopit.jp>
TEL: 050-3754-2219
E-mail: info@stopit.co.jp

相談窓口

STOPitアプリの「SOS」機能の連携先として、また児童生徒への紹介として、全国の相談窓口の一例をご案内します。

24時間子供SOSダイヤル

0120-0-78310

チャイルドライン

18さいまでの子どもがかけるでんわ

0120-99-7777

受付時間：毎日 午後4時～午後9時
(12月29日～1月3日は休業)

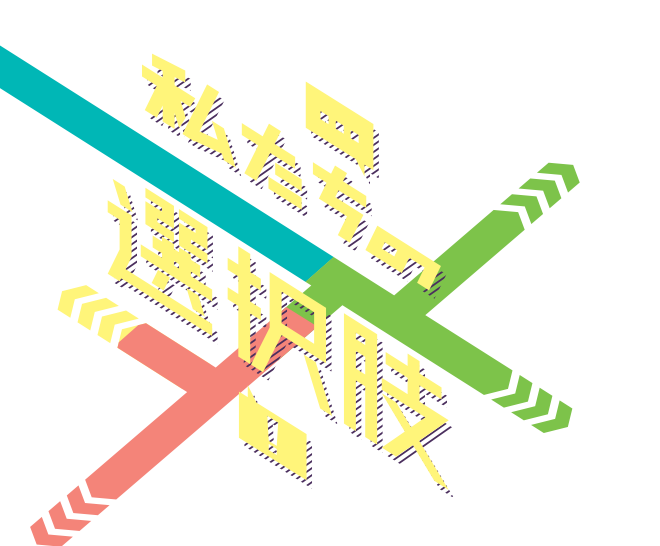
子どもの人権110番 全国共通フリーダイヤル

0120-007-110

受付時間：平日 午前8時30分～午後5時15分

SOS-eメール インターネット人権相談受付窓口

<https://www.jinken.go.jp>



「私たちの選択肢」利用の手引き

2018年12月発行

冊子

発行：ストップイットジャパン株式会社

制作：アラサキデザインスタジオ

付属DVD

総監修：千葉大学教育学部 教授 藤川大祐

監修（第3作）：千葉大学教育学部 教授 片岡洋子

プロット作成・監修補佐：千葉大学国際教養学部 山本恭輔

制作：株式会社千代田ラフト

著作

千葉大学教育学部 教授 藤川大祐

千葉大学教育学部 教授 片岡洋子（第3作）

ストップイットジャパン株式会社

協力

柏市教育委員会

静岡大学国際連携推進機構 特任准教授 青山郁子

兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 五十嵐哲也

敬愛大学国際学部 准教授 阿部学

認定NPO法人3keys 森山誉恵

NPO法人Medical G Link 鈴木麻斗

認定NPO法人ReBit

東金市立東金中学校 教諭 三戸雅弘

NPO法人企業教育研究会 竹内正樹

NPO法人企業教育研究会 古林智美

NPO法人企業教育研究会 山本恭輔

NPO法人企業教育研究会 北川あかり

NPO法人企業教育研究会 佐藤康平

本冊子に関する問い合わせ

ストップイットジャパン株式会社

東京都中央区東日本橋2-1-15 STR東日本橋4F

W E B : <http://www.stopit.jp>

T E L : 050-3754-2219

E-mail : info@stopit.co.jp



付属のDVDについて

【おことわり】●付属のDVDは、教育機関における授業、研修等で視聴することを目的とした用途に限り、頒布が許諾されています。著作権者に無断でこれを複製すること、公衆送信（有線、無線の放送、インターネット送信を含む）、公開上映すること等は法律で禁じられています。【取扱い及び保管上のご注意】●ご使用になるプレーヤーにより、操作が若干異なる場合があります。詳しくはプレーヤーの取扱説明書をご参照ください。●ディスクは両面とも、指紋、汚れ、キズ等をつけないように取り扱いってください。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふきとってください。レコード用クリーナーや溶剤などは使用しないでください。●ディスクは両面とも、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を描いたり、シール等を貼付したりしないでください。●ひび割れや変形、または接着剤等で補修したディスクは、危険ですので絶対に使用しないでください。●直射日光のあたる場所、高温・多湿な場所での使用、保管は避けてください。

DVD鑑賞上の注意：ご視聴の際は部屋を明るくし、なるべくテレビ画面より離れてご覧ください。

